

## 実践のまとめ（第1学年 国語科）

妙高市立新井中学校  
教諭 西脇 万葉

### 1 研究テーマ

**学び合い活動を通して思考力を深め、主体的に課題解決を目指す生徒の育成**

### 2 研究テーマについて

#### (1) テーマ設定の意図

学習指導要領（平成29年告示）では、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを国語科の目標としている。つまり、言葉に着目して知識及び技能を使いながら思考・判断・表現等を行うこと、生徒自身が単元全体を通して学習のゴールを意識し、そのゴールに向かって言葉を根拠とした考えの交流を行うことが、授業における国語科的活動であると考えられる。

これまでの授業を振り返ると、生徒同士の意見交流の場や機会は設定してきたものの、意見を伝え合うにとどまることが多く、話し合いの深まりはあまり見られなかった。また、自ら進んで課題解決をしようとする生徒は見られたが、もっと多くの生徒に積極的に課題と向き合ってもらいたいとも感じた。

更に、当校は「確かな学力を活用し課題を解決しよう」と主体的に学べる」「自他を理解し多様な他者と協働的・対話的に学べる」生徒の育成を目指している。この点も踏まえ、思考力が深まるような学び合いを授業に取り入れ、主体的に課題を解決したいと思える生徒を育成するため、上記テーマを設定した。

#### (2) 研究テーマに迫るために

##### ① 学び合い活動の充実、工夫

生徒が自らの考えを仲間に伝え、仲間の考えを聞く学び合い活動を、継続的に授業に取り入れる。また、互いの意見を聞くのみの活動ではなく、「仲間の意見を聞き、自分はどうか考えたか」まで思考を深められる学び合い活動にするため、以下の工夫をする。

- |                          |
|--------------------------|
| ア 根拠と理由を明確にして、意見を述べさせる。  |
| イ 仲間の意見を聞いて、自分の意見を再考させる。 |

上記アの工夫により、生徒は自らの考えをより自信をもって仲間に伝えられるようになる。また、イの工夫により、仲間との交流の中で自分の思考が深まっていくことのおもしろさを感じることができると考える。ア・イの工夫により、主体的に課題に取り組む姿勢が多く見られるようになる。と考える。

##### ② 学習課題の工夫

教師から一方的に与えられた「～しよう」型の課題では、主体的な課題解決の姿勢が見られにくいのではないかと感じた。そこで、課題を「～？」で終わるような問いかけ型にする。これにより、生徒が興味・関心を持ちながら、主体的に課題に取り組めると考える。また、授業終わりに課題に対する答えがはっきりと分かたり、授業内で課題に対して自分なりの答えを出せたりすれば、生徒自身が納得感や達成感を得られ、より前向きに学習に取り組むようになる。と考える。

### (3) 研究テーマに関わる評価

- ① ワークシートや振り返りシートに、学び合い活動により思考が深まったことが読み取れる記述をする生徒が増える。
- ② 学び合い活動について、生徒の授業アンケートで肯定的評価が増える。

## 3 単元と指導計画

### (1) 単元名

心の動き／星の花が降るころに（中学校国語1 光村図書）

### (2) 単元（題材）の目標

- ① 比喩、反復、倒置、体言止め、省略などの表現の技法を理解し使うことができる。  
【知識及び技能】（1）オ
- ② 目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付けたりして、内容を解釈することができる。【思考力、判断力、表現力等】C  
（1）ウ
- ③ 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする。【学びに向かう力、人間性等】

### (3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
比喩、反復、倒置、体言止め、省略などの表現の技法を理解している。（1）オ	「読むこと」において、目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と場面、場面と描写などを結び付け、内容を解釈している。C（1）ウ	進んで場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈し、学習の見通しをもって考えを伝え合おうとしている。

### (4) 単元／教材の指導計画と評価計画（全7時間、本時7／7時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
1 (1)	・作品を通読する。 ・後日談を考える。 ・時や場所、登場人物の組み合わせなどに注意しながら、作品を場面分けする。	◎この後、二人はどうなる？ →作品を通読し、この後「私」と夏実がどうなると思うか、この時点での考えをもち、仲間と交流する。 ◎いくつに分けられる？ →時、場所、登場人物、出来事に着目し、場面分けをする。	<b>態度</b> 仲間と積極的に意見交流しようとしている。【行動観察】 <b>知・技</b> <b>思・判・表</b> 本文の言葉に着目しながら、場面分けができています。【ワークシート】
1 (2)	・場面の展開に沿って、「私」の気持ちの変化をまとめる。	◎「私」の気持ち、どう変化している？ →言動、心情、情景描写、表現技法等に着目し、「根拠」「理由」を明らかにしながら「意見」（「私」の気持ち）を書く。また、	<b>知・技</b> <b>思・判・表</b> 根拠と理由を明らかにしながら、自分の意見をまとめている。【ワークシート】 <b>態度</b> 意見交流で、仲間の意見を認めたり、自分の意見を再考したりする態度が見ら

		「私」の気持ちの変化を心情曲線でまとめ、それぞれの場面における「私」の「前向き度」を、星の花形を塗ることで表現する。 →「私」の気持ちの変化について、仲間と意見交換する。	れる。【行動観察】【ワークシート】
2 (2)	・同じ物や場所について、それぞれの場面や描写を比べて読み、どんなことが読み取れるかを話し合う。	◎「あたかも」「銀木犀」は、「私」にとってどういう意味のものに変わった？ →「あたかも」「銀木犀」が出てくる場面の描写を比べ、「私」と「戸部君」の関係性の変化や、「私」の心情の変化を、「私」の言動を明確にしながら話し合う。	知・技 思・判・表 場面や人物・物の描写を結び付け、それらを根拠とし、理由を明らかにしながら、自分の意見をまとめている。【ワークシート】 態度 意見交流で、仲間の意見を認めたり、自分の意見を再考したりする態度が見られる。【行動観察】【ワークシート】
3 (2)	・題名や描写、表現技法に着目し、作品の主題を考える。	◎「星の花が降るころに」、「私」と夏実はどうなっている？ →「銀木犀」に関する描写や、「私」の言動、表現技法などを根拠とし、題名「星の花が降るころに」、「私」と夏実はどうなっているか（A：再び仲良くなっている、B：それぞれ別の道を歩んでいる の二択）を考え、作品の主題をまとめる。	知・技 思・判・表 場面や人物・物の描写、題名や表現技法などに着目し、それらを根拠として理由を明らかにしながら、自分の意見を持ち、作品の主題をまとめている。【ワークシート】 態度 意見交流で、仲間の意見を認めたり、自分の意見を再考したりする態度が見られる。【行動観察】【ワークシート】

#### 4 単元（題材）と生徒

##### (1) 単元について

これまで、文学的教材においては、登場人物同士の関係性や人物像、心情の変化等について、本文の記述を根拠としながら考え、意見交流を重ねてきた。本教材は、本文に立ち返り、根拠を明らかにしながら自分の考えを構築することができる教材である。また、その後の学び合い活動が、思考に深まりをもたらすと考える。研究テーマである、学び合い活動を通して思考力を深め、主体的に課題解決を目指すような手立てを講ずる必要がある。

##### (2) 生徒の実態

明るく前向きに授業に臨んでいるが、NRTの結果からは、主題や構成を読み取ったり、考えや感想をまとめ、伝え合ったりすることに課題のある集団であることが分かる。そのため授業では、ワークシートを使って丁寧に読み取りを行ったり、考えや感想を伝え合う機会を多く設定したりしてきた。話し合い活動自体に抵抗はないが、発言が一部の生徒に偏るなど、受け身的な授業態度の生徒も多く、思考の深まりがあまり見られない。

本教材では、学習課題の提示の仕方を工夫したり、根拠や理由を明確にした意見での学び合いの場を設定したりすることで、仲間の意見から自分の考えが深まるおもしろさや、互いに意見交流する楽しさを味わわせ、より主体的に学習課題に向き合う生徒を育成したい。

## 5 本時の展開 (令和5年10月4日実施)

### (1) ねらい

題名や情景描写に着目して主人公の言動を想像し、主題を考える。

### (2) 展開の構想

- ① 自分の考えを教科書の本文に基づいた根拠、そこから考えた理由と共にまとめ、仲間と伝え合い、さらに再考できるようなワークシートを活用する。
- ② 生徒が主体的に取り組めるよう、学習課題を「『星の花が降るころに』、『私』と夏実はどうなっている?」という問いかけ型にする。

### (3) 展開

時間 (分)	学習活動	◎教師の働き掛け ・予想される生徒の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
導入 5	①本時の学習課題を理解する。	◎題名に着目させ、どのように文章が続くか疑問をもたせることで課題につなげる。	◇例を挙げながら、後に続く文が省略されていることに気づかせる。
<b>学習課題 「星の花が降るころに」、「私」と夏実はどうなっている?</b>			
展開 40	②「私」の言動や情景描写、表現技法から、「私」と夏実がこの後どうなっているか、 A：再び仲良くなっている。 B：別々の道を歩んでいる。 どちらかの立場を選んで考える。	◎個人思考を促す。 ◎意見が根拠や理由に支えられたものになるよう指示する。 ・「私」は銀木犀の花を地面に落としたから… ・最後に、木から出たから…	○根拠とする記述や理由は、個人で違っていても良いことを確認する。 □ <b>思・判・表</b> 根拠、理由を明確にしながら、意見をまとめている。【ワークシート】
	③仲間（A派とA派、B派とB派、A派とB派）と意見交流をし、自分の意見を再考する。	◎仲間の意見を聞いて、自分の意見は変わったか、変わらなかったか、強まったか、を仲間の意見を根拠として書くよう指示する。	○考えは変わらなくても良いことを確認する。 □ <b>思・判・表</b> 仲間の意見をもとにして、自分の意見を

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・〇〇さんの意見を聞いて、自分の考えが…</li> <li>・根拠は一緒だったけれど、理由は違っていたから…</li> </ul>	<p>再考している。【ワークシート】</p> <p><input type="checkbox"/> <b>態度</b> 活発に学び合い活動をする様子が見られる。 【行動観察】</p> <p><input type="checkbox"/> <b>態度</b> 仲間の意見をしっかりと聞く様子が見られる。 【行動観察】</p>
④再考した意見を、ペアで確認し、全体で共有する。	◎仲間がどのような点に着目して自身の意見を再考しているか、着目させる。		
まとめ 5	⑤振り返りシートで、振り返りを行う。	◎分かったこと、仲間との意見交流で考えたこと、難しかったこと、次頑張りたいこと、初回の授業での自分の意見と本時での意見を比べて考えたこと等の観点で振り返りをさせる。	<input type="checkbox"/> <b>態度</b> 本時の学習を振り返り、次の学びにつなげていこうとする姿勢が見られる。【振り返りシート】

#### (4) 評価

- ・言動、情景描写、表現技法を活用し、根拠・理由を明らかにしながら意見を導き出し、課題解決ができる。【思考・判断・表現】
- ・仲間との意見交流から、自分の意見を再考できる。【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】
- ・学習を振り返り、次の学びにつなげる姿勢がある。【主体的に学習に取り組む態度】

## 6 実践を振り返って

### (1) 授業の実際（指導の実際）

#### ① 作品を通読し、主人公の気持ちの変化を捉える。（第1次）

作品を通して主人公の気持ちがどのように変化したかを、心情曲線でまとめさせた。本文を根拠として抜き出させることで、自分の考えに説得力をもたせられるようにした。また、場面ごとの主人公の「前向き度」を星の花の数で表現させることで、作品の初めと終わりでの主人公の気持ちを比較することができた。

#### ② 作品の前半と後半に共通で出てくるキーワードを比べて読み、使われ方の違いや、何を表現するために使われているのかを理解する。（第2次）

作品の前半と後半で出てきた「あたかも」の使われ方の違いに着目させ、使われ方が違うのは何を表現するためなのか、後半に再び出てくるのはなぜなのかを考えさせた。「あたかも」と共に描かれている主人公の言動から気持ちを推測することで、前半はマイナスなイメージで使われていた「あたかも」が、後半ではプラスなイメージで使われていること、主人公の気持ちを象徴するものとして使われていることなどを理解した。

#### ③ 作品のキーワードに関する描写を読み比べることで主題を捉え、意見交流で自身の考えを深める。（第3次）

「銀木犀」に関する描写や、主人公の言動を根拠として挙げさせ、「『星の花が降るころに』、『私』と『夏実』はどうなっているだろうか」を考えさせた。当初は、「星の花が降るころに」の後に続く文章を考えさせ、主題を捉えさせようと考えてい

たが、生徒の実態を踏まえ、「星の花が降るころに」、「私」と「夏実」は…A：再び仲良くなっている、B：それぞれ別の道を歩んでいる というように、二択で考えさせることとした。また、初読の段階でA派かB派かを考えさせておき、本時において自身の考えの変化を確認できるようにした。さらに、根拠として挙げるための本文をワークシート（図1）

<p>最終的な自分の意見は…？</p> <p>B…それだけが自分の道を進んでいる。</p>	<p>理由</p> <p>自分の考えは「変わった」「変わらなかった」「進まなかった」</p>	<p>理由</p> <p>自分の考えは「変わった」「変わらなかった」「進まなかった」</p>	<p>「星の花が降るころに」、「私」と夏実は… A：また仲良しになっている。 B：それぞれが自分の道を進んでいる。</p>
---	--	--	---

図1

に載せ、そこから考えた理由を明記することで、生徒が意見に説得力をもたせられるようにした。多くの生徒が本文の描写を根拠とし、どのようなことが読み取れるかを書くことができていた。それにより、自分の意見を自信をもって言えていた生徒が多く見られ、活発な意見交流がなされていたと感じた。しかし、「銀木犀」の描写を比較せずに意見を導き出していた生徒もおり、ワークシートや説明にもっと工夫が必要だと感じた。自分の意見を再考する機会を3回設けたが、再考の程度には差が見られた。

## (2) 研究テーマに関わって

研究結果に関する評価結果は、以下の通りである。

### 【ワークシート、振り返りシートの記述】

- 仲間の理由は、自分のものより明確で、なるほどと思えた。
- B派ということは変わらなかったけれど、「私」がポジティブな考えをしているのだと考えるようになった。
- 自分と同じ意見を聞いて、自分の考えに自信がもてた。
- 自分の考えは変わらなかったけれど、理由が変わった。
- A派の人の意見を聞いた時、自分と同じところを根拠として選んでいたけれど、理由は違っていてもよかった。
- B派だったが、A派になるような文（根拠）もたくさんあったことに気づけた。
- また新しい考えを見つけて、自分の意見を深め、強めることができた。
- 自分の意見は変わらなかったけれど、考えは広がった。
- ▲友達の考えで意見が変わりそうになったけれど、自分の考えを貫こうと思った。
- ▲班の人がみんなB派だったから、自分の意見が強まった。
- ▲自分の意見の方が良いと思ったから、考えは変わらなかった。

### 【授業アンケートの結果】（図2～図3）



図2

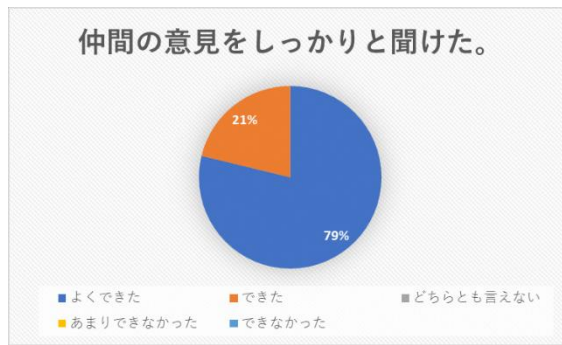


図3



図 4



図 5

- ① ワークシート、振り返りシートの記述から分かるように、学び合い活動（意見交流）によって、思考の深まりが見られた生徒が多くいた。また、授業アンケートの「仲間の意見と自分の意見を比べ、自分の意見を再び考えられた」（図 4）では、大多数の生徒が肯定的評価をしており、「仲間との意見交流を通して、自分の考えを深められた」

（図 5）においても、ほとんどの生徒が肯定的評価をしていた。同じ立場、違う立場の仲間との意見交流、それを踏まえての自身の意見の再考の流れが、有効だったと考えられる。しかし、ワークシート、振り返りシートの記述の中の▲の記述に見られるような、「自分の意見を再び考えられた」、「自分の考えを深められた」とは言い難い学びの姿にもかかわらず、肯定的評価をしていた生徒もいた。「『自分の意見を再び考えられた』、『自分の考えを深められた』というのが、どういった学びの姿のことなのか」を、もう少し詳しく説明する必要があったと感じた。

- ② 授業アンケートの「自分の意見を、根拠・理由を明確にして、仲間に伝えられた」（図 2）では、約 9 割の生徒が、肯定的評価をしていた。根拠と理由で意見をしっかり支えたいうで交流ができるよう、ワークシートを工夫したことで、自信をもって仲間と意見交流ができた生徒が多かったのだと考えられる。また、「仲間の意見をしっかりと聞いた」（図 3）においては、100%の生徒が、肯定的評価をしていた。「仲間の意見と自分の意見を比べたり、仲間と自分の意見にどのような違いがあるのか、なぜそのように違うのかを知ったりすることで、自分の意見を再考する」という課題設定が、仲間の考えをよく聞き、積極的に学び合い活動に参加しようとする態度につながったのだろう。図 2～図 5 から分かるように、全体的に肯定的評価が多かった。講じた手立てが、主体的に課題解決をしようとする姿に有効であったと考えられる。

### (3) 今後の課題

ワークシートや振り返りシートの記述、授業アンケートの結果から、根拠と理由を明確にして、意見を述べさせたり、仲間の意見を聞いて、自分の意見を再考させたりすることが、生徒の思考力を深めるために有効だと再確認できた。また、課題設定の仕方を工夫したり、意見交流と意見を再考する活動を組み合わせたりすることで、主体的に課題解決をしようとする態度が多く見られることも分かった。しかし、意見の再考の程度には差が見られたため、何に注目して再考すると良いかというポイントや、仲間の意見に流されるのではなく、「なぜ納得したのか」を意識して再考する必要があること等を指導したい。

また、今回は意見交流の時間や全体共有の時間が少なくなってしまったので、それらの時間をしっかりと確保する、また、よりスムーズで深まりのある意見交流を行うためにも、ICTを有効活用することが大切だと感じた。

<参考文献>

- ・「中学校学習指導要領解説 国語編」文部科学省（2017. 7）
- ・「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」文部科学省（2020. 6）